

## 第 2 章

# アーベル圏

アーベル圏は、ホモロジー代数を適用できるという意味で  $R\text{-Mod}$  の一般化と言える。

### 定義 2.1: 始対象・終対象・零対象

圏  $\mathcal{C}$  を与える。

- $I \in \text{Ob}(\mathcal{C})$  が**始対象** (initial object) であるとは、 $\forall X \in \text{Ob}(\mathcal{C})$  に対して  $\text{Hom}_{\mathcal{C}}(I, X)$  が一元集合となること。
- $I \in \text{Ob}(\mathcal{C})$  が**終対象** (final object) であるとは、 $\forall X \in \text{Ob}(\mathcal{C})$  に対して  $\text{Hom}_{\mathcal{C}}(X, I)$  が一元集合となること。
- 始対象かつ終対象であるような対象が存在するとき、それを**零対象** (zero object) と呼んで  $0$  と書く。
- 零対象が存在するとき、 $\forall A, B \in \text{Ob}(\mathcal{C})$  に対して  $\exists! p \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(A, 0)$  かつ  $\exists! i \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(0, B)$  である。このとき、一意に定まる射  $i \circ p \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(A, B)$  のことを**零射** (zero morphism) と呼んで  $0$  と書く。

## 2.1 イコライザ

### 定義 2.2: イコライザ

圏  $\mathcal{C}$  と 2 つの射  $f_i \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(A, B)$  ( $i = 1, 2$ ) を与える。

射  $g \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(C, A)$  が  $f_1, f_2$  の**イコライザ** (equalizer) であるとは、 $\forall X \in \text{Ob}(\mathcal{C})$  に対して 集合の写像

$$\begin{aligned} \text{Hom}_{\mathcal{C}}(X, C) &\longrightarrow \{ \varphi \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(X, A) \mid f_1 \circ \varphi = f_2 \circ \varphi \}, \\ \psi &\longmapsto g \circ \psi \end{aligned}$$

が well-defined な全単射となること (可換図式 2.1)。

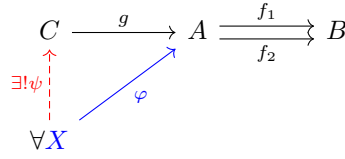


図 2.1: イコライザ

### 定義 2.3: コイコライザ

圏  $\mathcal{C}$  と 2 つの射  $f_i \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(A, B)$  ( $i = 1, 2$ ) を与える.

射  $g \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(B, C)$  が  $f_1, f_2$  の **コイコライザ** (coequalizer) であるとは,  $\forall X \in \text{Ob}(\mathcal{C})$  に対して 集合の写像

$$\begin{aligned} \text{Hom}_{\mathcal{C}}(C, X) &\longrightarrow \{ \varphi \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(B, X) \mid \varphi \circ f_1 = \varphi \circ f_2 \}, \\ \psi &\longmapsto \psi \circ g \end{aligned}$$

が well-defined な全単射となること (可換図式 2.2).

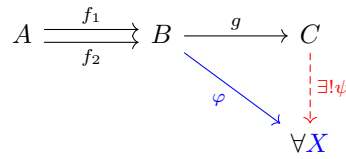


図 2.2: コイコライザ

### 命題 2.1:

- **イコライザ**は存在すれば単射<sup>a</sup>.
- **コイコライザ**は存在すれば全射<sup>b</sup>.

<sup>a</sup> 故に部分対象

<sup>b</sup> 故に商対象

**証明** イコライザ  $g \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(C, A)$  の定義から集合の写像

$$g_*: \text{Hom}_{\mathcal{C}}(X, C) \longrightarrow \text{Hom}_{\mathcal{C}}(X, A), \psi \longmapsto g \circ \psi$$

は単射. よって  $g$  は単射 (mono 射) である.

コイコライザ  $h \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(B, C)$  の定義から, 集合の写像

$$h^*: \text{Hom}_{\mathcal{C}}(C, X) \longrightarrow \text{Hom}_{\mathcal{C}}(B, X), \psi \longmapsto \psi \circ h$$

は単射. よって  $g$  は全射 (epi 射) である. ■

$R\text{-Mod}$  における核・余核, 像・余像は, 次のように一般化される:

### 定義 2.4: 核・余核

零対象を持つ圏  $\mathcal{C}$  を与え、 $\forall f \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(A, B)$  をとる.

- $f$  と零射とのイコライザを  $f$  の核 (kernel) と呼び、 $\ker f: \text{Ker } f \rightarrow A$  と書く.
- $f$  と零射とのコイコライザを  $f$  の余核 (cokernel) と呼び、 $\text{coker } f: B \rightarrow \text{Coker } f$  と書く.

### 定義 2.5: 像・余像

零対象を持ち、任意の射の核・余核が存在する圏  $\mathcal{C}$  を与え、 $\forall f \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(A, B)$  をとる.

- $A$  の部分対象  $(\text{Im } f, \text{im } f) := (\text{Ker}(\text{coker } f), \ker(\text{coker } f))$  のことを  $f$  の像 (image) と呼ぶ.
- $B$  の商対象  $(\text{Coim } f, \text{coim } f) := (\text{Coker}(\ker f), \text{coker}(\ker f))$  のことを  $f$  の余像 (coimage) と呼ぶ.

!

- 命題 2.1 から、 $\text{im } f$  は単射. また、コイコライザの定義から  $\text{coker } f \circ f = 0$  が成り立つ<sup>a</sup>から、イコライザの定義により  $\ker(\text{coker } f) \circ q = \text{im } f \circ q = f$  を満たす射  $q \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(A, \text{Im } f)$  が一意的に存在する.
- 命題 2.1 から、 $\text{coim } f$  は全射. また、イコライザの定義から  $f \circ \ker f = 0$  が成り立つ<sup>b</sup>から、コイコライザの定義により  $i \circ \text{coker}(\ker f) = i \circ \text{coim } f = f$  を満たす射  $i \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(\text{Coim } f, B)$  が一意的に存在する.

<sup>a</sup>  $X = C$  において  $\text{id}_C \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(C, C)$  の行き先を考えると  $\text{coker } f$  になるが、余核は零射とのコイコライザである.

<sup>b</sup>  $X = C$  において  $\text{id}_C \in \text{Hom}_{\mathcal{C}}(C, C)$  の行き先を考えると  $\ker f$  になる.

## 2.2 アーベル圏に関わる諸定義

### 定義 2.6: アーベル圏

圏  $\mathcal{A}$  がアーベル圏 (Abelian category) であるとは、以下を満たすことをいう:

- (Ab1) 零対象  $0 \in \text{Ob}(\mathcal{A})$ .
- (Ab2)  $\forall A_1, A_2 \in \text{Ob}(\mathcal{A})$  に対して積  $A_1 \times A_2$  と和  $A_1 \amalg A_2$  が存在する.
- (Ab3)  $\mathcal{A}$  における任意の射は核、余核を持つ.
- (Ab4)  $\mathcal{A}$  における任意の単射  $f \in \text{Hom}_{\mathcal{A}}(A, B)$  に対して  $(A, f) \simeq (\text{Ker}(\text{coker } f), \ker(\text{coker } f))$  が<sup>a</sup>, 任意の全射  $f \in \text{Hom}_{\mathcal{A}, B}$  に対して  $(B, f) \simeq (\text{Coker}(\ker f), \text{coker}(\ker f))$  が成り立つ<sup>b</sup>.

<sup>a</sup> 部分対象として同値

<sup>b</sup> 商対象として同値

### 定義 2.7: アーベル圏における完全列

- **アーベル圏**  $\mathcal{A}$  における図式

$$A \xrightarrow{f} B \xrightarrow{g} C$$

が**完全** (exact) であるとは,  $B$  の部分対象として  $(\text{Ker } g, \ker g) \simeq (\text{Im } f, \text{im } f)$  であることを言う.

- $\mathcal{A}$  における図式

$$\cdots \xrightarrow{f_{n-1}} A_n \xrightarrow{f_n} A_{n+1} \xrightarrow{f_{n+1}} \cdots$$

が**完全**であるとは,  $\forall i$  に対して図式  $A_i \xrightarrow{f_i} A_{i+1} \xrightarrow{f_{i+1}} A_{i+2}$  が完全であること.

### 定義 2.8: アーベル圏の間の関手

$\mathcal{A}, \mathcal{B}$  を**アーベル圏**,  $F$  を  $\mathcal{A}$  から  $\mathcal{B}$  への関手とする.

- $F$  が**加法的** (additive) であるとは,  $\forall A, B \in \text{Ob}(\mathcal{A})$  に対して  $F_{A,B}: \text{Hom}_{\mathcal{A}}(A, B) \rightarrow \text{Hom}_{\mathcal{B}}(F(A), F(B))$  が可換群の準同型写像となることを言う.
- $F$  が**左完全** (left exact) であるとは,  $\mathcal{A}$  における

$$0 \longrightarrow A \longrightarrow B \longrightarrow C$$

の形をした任意の完全列に対して

$$0 \longrightarrow F(A) \longrightarrow F(B) \longrightarrow F(C)$$

が  $\mathcal{B}$  における完全列となることを言う.

- $F$  が**右完全** (right exact) であるとは,  $\mathcal{A}$  における

$$A \longrightarrow B \longrightarrow C \longrightarrow 0$$

の形をした任意の完全列に対して

$$F(A) \longrightarrow F(B) \longrightarrow F(C) \longrightarrow 0$$

が  $\mathcal{B}$  における完全列となることを言う.

- $F$  が**完全** (exact) であるとは, 任意の  $\mathcal{A}$  における完全列

$$A \longrightarrow B \longrightarrow C$$

に対して

$$F(A) \longrightarrow F(B) \longrightarrow F(C)$$

が  $\mathcal{B}$  における完全列となることを言う.

## 2.3 埋め込み定理

証明を省いて Mitchell の埋め込み定理を紹介する.

**定理 2.1: Mitchell の埋め込み定理**

$\mathcal{A}$  を小さなアーベル圏とすると、ある環  $R$  とある完全忠実充満関手  $\mathcal{A} \rightarrow R\text{-Mod}$  が存在する.